

# 令和2年度学校評価

## 1 はじめに

学校教育法42条に「教育活動その他の学校運営の状況について評価を行い、その結果に基づき学校運営の改善を図るため必要な措置を講ずることにより、その教育水準の向上に努めなければならない」とある。これが学校評価をおこなう法的根拠である。また、同43条では「教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を積極的に提供するものとする」とあり、学校評価の情報提供が義務づけられている。

本校では、校長、教頭、部主事、各校務部長からなる学校評価委員会を中心に学校評価をおこなっており、その結果をホームページに掲載することで公表している。さらに学校関係者評価委員会を開催し、評議員やPTA代表などからも広く意見を求めたうえで評価結果を取りまとめ、次年度の学校運営の改善に役立っている。

## 2 令和2年度学校評価の取組

### (1) 令和2年度学校評価における課題と重点目標及び方策

対象者	課題	重点目標	方策
児童生徒	学校生活の充実	安全安心に充実した学校生活を送れるよう、一人一人の教育的ニーズに応じた教育活動の推進を図る	「実態表」を活用するとともに、教員間の連携を密にすることにより、個に応じた支援の検討および実践に努める。また、日常の関わりにおける観察より得られる児童生徒の状況や変容を把握し、日々の実践に活かせるよう努める。
保護者	情報の提供と保護者の交流	学校の様々な情報を発信することで、理解や参画を促す。保護者同士の交流をさらに図る。	各部、各校務部と連携し、保護者の要望に応じた情報提供や理解啓発への取組を図るとともに、保護者同士の交流が活発になる機会を提供する。
医療センター	情報の提供と連携	様々な機会を捉え、適切な方法で学校の情報を発信し、連携の充実を図る。	病院への連絡方法や情報の提供の在り方を検討するとともに、DNT会・CNT会が活発な情報交換の場になるよう、関係構築や議題内容の充実を図る。
教職員	授業改善と教職員の専門性向上	児童生徒の病状や特性の理解を深めることで、専門的な知識・技能を高め、指導内容や方法、指導体制の工夫と改善に努める。	業務の効率化をはかることで授業改善に必要な時間を確保し、児童生徒の特性に合った指導や支援の専門性を高めるため、支援に関する教員研修を充実させる。 部会、グループ会等を有効活用して教員間の情報交換を密にすることで、一丸となつての指導に取り組む。

(2) 学校評価の方法及び年間実施計画

① 学校評価の方法

上記の「令和2年度学校評価における課題と重点目標及び方策」をもとに、各部の経営方針及び各校務部の経営計画を決定した。職員会議での周知を経て、教職員共通理解のもと、今年度の教育活動や学校運営に取り組んだ。それらの評価については、12月初めに生徒(中学部・高等部)、保護者、四国こどもとおとなの医療センター職員及び教職員を対象とするアンケートを実施し、その結果を集計、分析したものをもとに自己評価としてまとめた。2月3日、学校関係者評価委員会において自己評価を報告し、学校評議員及びPTA代表者から意見を聴取したうえで評価結果を取りまとめる。そしてこれらを参考に、今後の教育活動や学校運営の改善に向けて、令和3年度の重点目標及び方策を策定していく。

② 学校評価の年間スケジュール

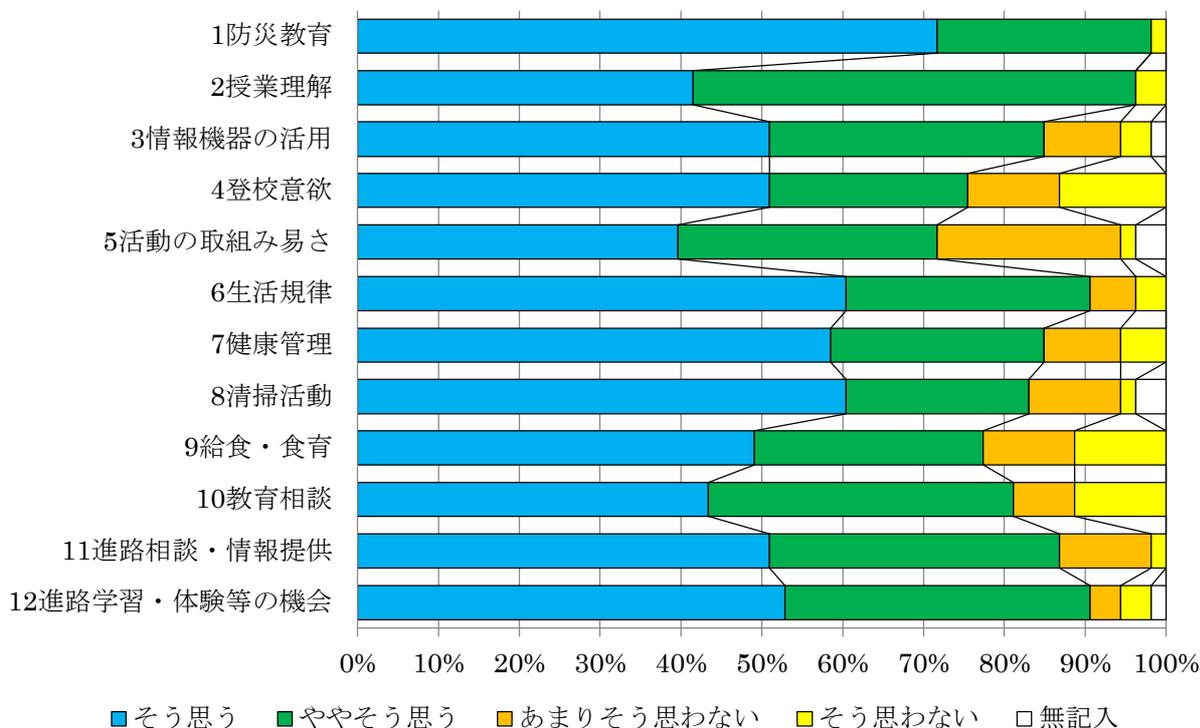
月	評価	内 容
4月	P ↓ D ↓ C ↓ A サイ クル で 実 施	学校評価委員会設置【校長・教頭・部主事・各校務部長】
5月		運営委員会 令和2年度校務部経営計画、評価項目等の検討
6月		第1回学校評価委員会(今年度は資料配付による) 令和2年度学校評価計画及び実施に関する検討 職員会議で令和2年度学校評価計画及び実施に関する周知
7月		《学校生活に関する生徒アンケート(第1回)実施、集計、分析等》 (12月末までに同じアンケートを2回目実施) 第1回学校評議員会 校務部経営計画、評価項目等説明、授業見学等
9月		
10月		第2回学校評価委員会 生徒・保護者・医療センター・教職員用アンケート項目の検討 企画運営委員会及び職員会 学校評価アンケート実施について説明
11月		学校評価アンケート実施、集計等
12月		各学部・校務部で学校評価アンケート集計結果の分析等
1月		第3回学校評価委員会 各学部・校務部の分析結果の検討、自己評価等
2月		学校関係者評価委員会【学校評議員、PTA会長・副会長】 各学部・校務部の分析、自己評価の報告・説明
3月		職員会議で学校評価結果報告 学校評価の結果公表(学校ホームページ) 学校評価結果による次年度の「課題と重点目標及び方策」の検討

### 3 学校評価質問事項及び評価項目と集計結果

#### <生徒>

	質 問 事 項	評 価 項 目
1	あなたは、授業や避難訓練を通して、防災の大切さが分かりましたか。	防災教育
2	授業は、分かりやすく工夫されていますか。【例:文字の大きさやふりがな等】	授業理解
3	あなたは、パソコンやテレビ、タブレットコンピュータ、スイッチなどの機器を使った授業を受けて、分かりやすかったですか。	情報機器の活用
4	あなたは、学校に行くのが楽しいですか。	登校意欲
5	サークル活動、通学生の会、委員会活動、学部集会は、みなさんの意見を取り入れて、参加しやすいですか。	活動の取組み易さ
6	先生は、あなたの生活態度や社会ルールを守ることについて教えてくれていますか。	生活規律
7	あなたは、手洗い、歯磨きなどをして健康に気を付けていますか。	健康管理
8	あなたは、清掃活動の時間に、自分の清掃区域をきれいにしようと努めていますか。	清掃活動
9	あなたは、給食や食べ物に関心をもっていますか。	給食・食育
10	あなたは、生活や健康、勉強、進路等について相談できる先生がいますか。	教育相談
11	学校は、進路選択に関する相談や情報の提供をしていますか。	進路相談・情報提供
12	学校は、進路選択に関する学習や希望する進路先の見学や体験の機会を設定していますか。	進路学習・体験等の機会

生徒（配付58 回収53 回収率91.4%）

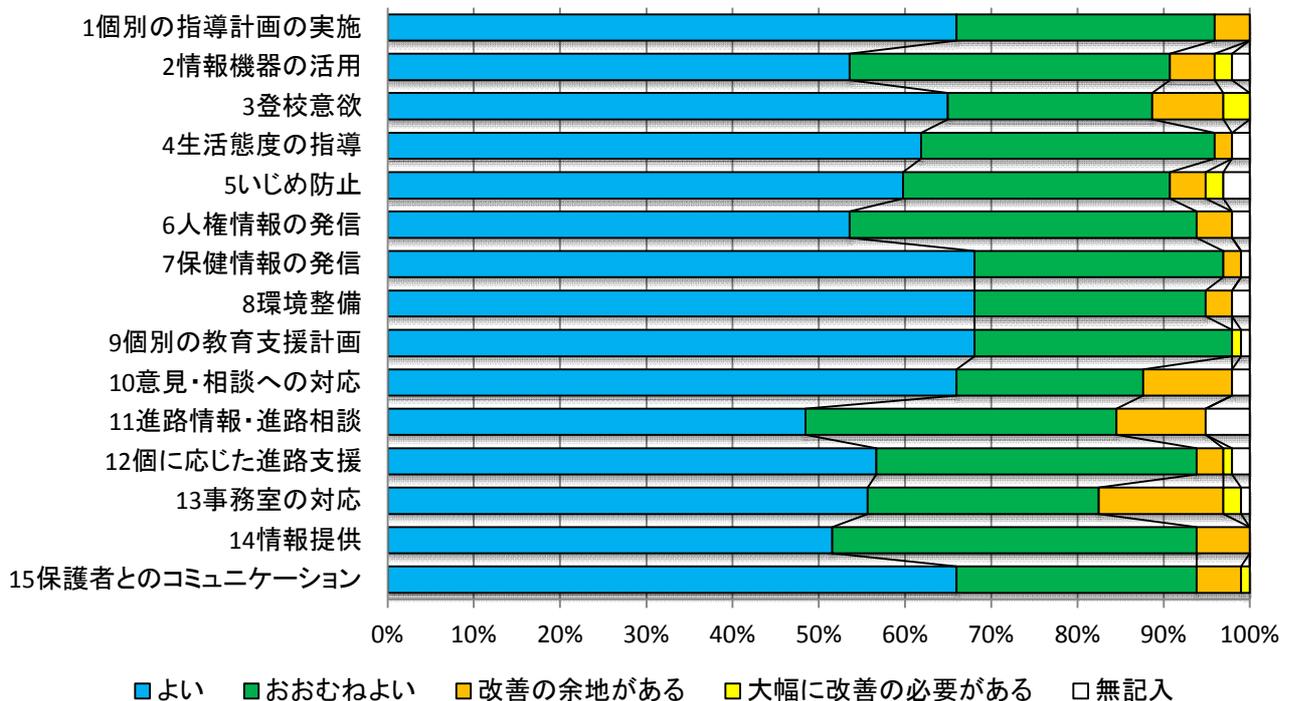


全体では「そう思う」「ややそう思う」が85.1%となっており、昨年度の結果（81.8%）からは少しながら上昇した結果となっている。特に「7 健康管理」では8.3%、「3 情報機器の活用」では9.9%と昨年度から大きく上昇しており、新型コロナウイルス感染防止の取組によるものと考えられる。また、昨年度低評価であった「12 進路学習・体験等の機会」では9.3%の上昇が見られ、昨年の結果をふまえての対策が功を奏する形となった。対して、「4 登校意欲」4.2%減、「5 活動の取組み易さ」3.3%減となっており、今後、対策および改善をはかる必要がある。ただ、「5 活動の取組み易さ」については、感染症対策の関係で活動に様々な制限がついたことも影響していると考えられる。

## <保護者>

	質 問 事 項	評 価 項 目
1	個別の指導計画について、十分な説明がされていますか。	個別の指導計画の実施
2	学校は、児童・生徒の実態に合わせて、授業や行事でパソコンやテレビ、タブレットコンピュータ、スイッチなどを活用していましたか。	情報機器の活用
3	お子さんは、学校に行くのを楽しみにしていますか。	登校意欲
4	教職員は、お子さんの生活態度や社会ルールを守ることにについて指導していますか。	生活態度の指導
5	学校は、「いじめ防止基本方針」に基づいて、お子さんが安心して学校生活を送れるように取り組んでいますか。	いじめ防止
6	学校は、人権や人権問題についての情報を適切に提供していますか。	人権情報の発信
7	学校は、おたより等を通して、保健や食育に関する情報を分かりやすく伝えていきますか。	保健情報の発信
8	学校内の清掃は、行き届いていますか。	環境整備
9	学校は、お子さんの「個別の教育支援計画」を本人・保護者の願いに基づいて作成し、適切な支援を行っていますか。	個別の教育支援計画
10	学校は、児童生徒について相談できる十分な環境を整えていますか。	意見・相談への対応
11	学校は、「進路だより」や掲示板、キャリア支援室を活用して、進路に関する情報の提供や相談が適切に行えていますか。	進路情報・進路相談
12	学校は、病院や地域の関係機関と連携をとって、個に応じた進路支援を行っていますか。	個に応じた進路支援
13	事務室窓口や電話の対応、取り次ぎは適切にできていますか。	事務室の対応
14	学校は、保護者が求めている情報を提供できていますか。	情報提供
15	学校は、保護者のみなさんとコミュニケーションをとることができていますか。	保護者とのコミュニケーション

### 保護者(配付115 回収97 回収率84.3%)

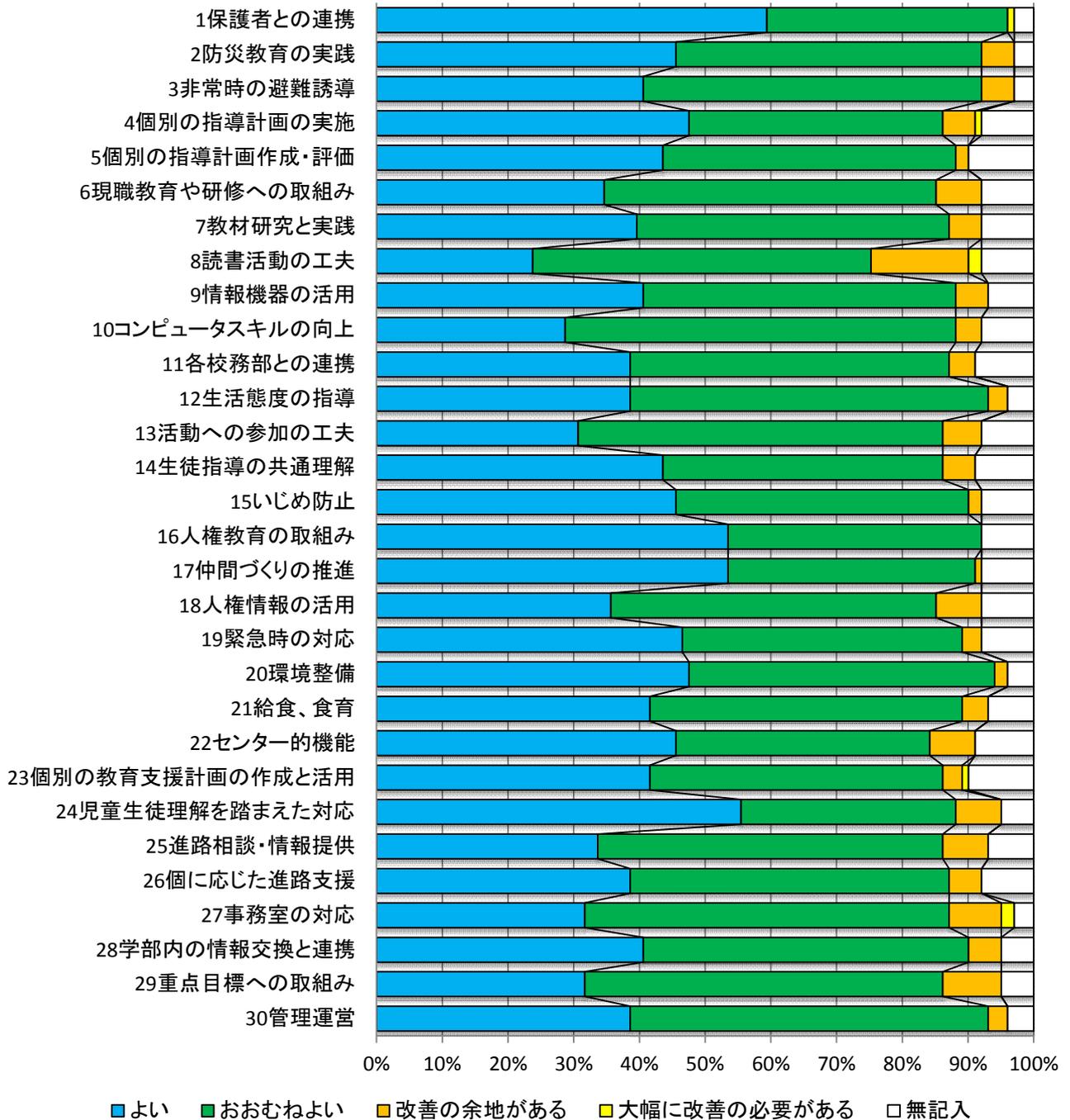


全体としては「よい」「おおむねよい」が 92.1%であり、昨年度（92.0%）とほとんど変わっていない。しかしながら、「10 意見・相談への対応」については昨年度から 5.9%減となっており、児童生徒がより相談しやすくなるよう環境改善に務める必要がある。また、この項目においては「先生方に余裕を感じないことがある」といったご指摘を受け、学校としても職員が余裕をもって児童生徒の指導に従事できるよう、業務改善に努めなければならないと感じるところである。「13 事務室の対応」については昨年度から「よい」「おおむねよい」が 6.9%減少しており、「改善の余地がある」の回答が最も多く厳しいご意見も頂戴する結果であった。電話応対等については、事務職員だけではなく教員にも該当することであるため、学校全体として研修機会を設け改善をはかっていかなければならない。

## <教職員>

	質 問 事 項	評 価 項 目
1	あなたは保護者に対し、学校行事や学習状況について様子を伝えるなどして連携に努めていますか。または、働き掛けに協力ができていますか。	保護者との連携
2	あなたは、児童生徒の実態に応じた防災教育に取り組んでいますか。または取り組みに協力ができていますか。	防災教育の実践
3	あなたは、非常時に適切に判断し、児童生徒を安全に避難誘導することができますか。	非常時の避難誘導
4	本人保護者の願いや実態表をもとに、職員間で指導内容や合理的配慮について話し合い、個別の指導計画を作成及び評価することができましたか。	個別の指導計画の実施
5	指導要録や個別の指導計画の手引きを活用し、作成及び記載することができましたか。	個別の指導計画作成・評価
6	「生きる力」形成のための各教科等の指導に向けて、専門性や資質向上のために現職教育や研修に積極的に取り組んでいますか。	現職教育や研修への取り組み
7	各教科等で「合理的配慮」を明確にした指導方法、教材教具の工夫をし、専門的な教育活動ができていますか。	教材研究と実践
8	児童生徒の読書意欲（電子書籍なども含む）を高めるための働き掛けや工夫をしていますか。	読書活動の工夫
9	あなたは、学校でパソコンやタブレットコンピュータ、テレビ、プロジェクターなどの機器を、授業や行事などで必要に応じて使うことができますか。	情報機器の活用
10	情報研修会や情報メディア部よりは、教職員のコンピュータスキル向上に役立っていますか。	コンピュータスキルの向上
11	情報メディア部は、他の校務部と連携して、研修会等の業務に取り組むことができていましたか。	各校務部との連携
12	あなたは、児童生徒の生活態度や社会ルールについて、卒業後を見据えた指導をしていますか。	生活態度の指導
13	あなたは、サークル活動、通学生の会、委員会活動、学部集会以児童生徒の意見を取り入れて、参加しやすいうように工夫していますか。	活動への参加の工夫
14	各部会等で、生徒指導に関する情報交換や具体的な指導方法が協議されていますか。	生徒指導の共通理解
15	あなたは、「いじめ防止基本方針」に基づいて、児童生徒が安心して学校生活を送れるように取り組んでいますか。	いじめ防止
16	あなたは、児童生徒の自尊感情や人権感覚が育つように意識して指導していますか。	人権教育の取り組み
17	あなたは、児童生徒が他の児童生徒、教員との関わりを通じて成長できるように働き掛けをしていますか。	仲間づくりの推進
18	あなたは、人権や人権問題に関する情報を児童生徒の指導に役立てていますか。	人権情報の活用
19	あなたは、児童生徒の病状について周りの人と情報を共有し、緊急時に適切な対応ができるようにしていますか。	緊急時の対応
20	あなたは、校舎内外の清掃活動や環境整備に努めていますか。	環境整備
21	あなたは、給食や食育に関して理解に努め対応していますか。	給食、食育
22	あなたは、地域におけるセンター的機能として連携訪問や教育相談などの支援事業を実施していることを知っていますか。	センター的機能
23	あなたは、活用マニュアルや記入例を基に、児童生徒の実態や本人・保護者の願いに応じて「個別の教育支援計画」を作成し、適切に支援をしていますか。	個別の教育支援計画の作成と活用
24	あなたは、児童生徒の病気や障害特性の理解に努め、対応していますか。	児童生徒理解を踏まえた対応
25	学校は、進路に関する情報の提供や相談が適切に行えていますか。	進路相談・情報提供
26	学校は、病院や地域の関係機関と連携をとって、個に応じた進路支援を行っていますか。	個に応じた進路支援
27	事務室の窓口や電話の応対、取り次ぎは適切にできていますか。	事務室の対応
28	あなたは、教職員や医療センター及び関係機関と必要に応じて適切に情報交換を行い、連携した指導ができていますか。	学部内の情報交換と連携
29	学校評価の重点目標を達成するために、「実態表」や学校生活での関わりを通して、具体的な改善策を生かした取り組みができていますか。	重点目標への取り組み
30	あなたは、教室環境等の安全面や事務処理など、管理運営面での適切な対処ができていますか。	管理運営

## 教職員（配付100 回収98 回収率98.0%）



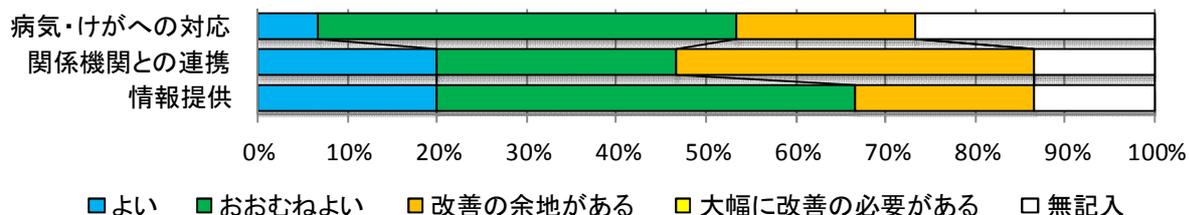
全体の集計として「よい」「おおむねよい」の回答は 88.3%であった。項目別には「1 保護者との連携」「20 環境整備」「30 管理運営」などの項目で「よい」「おおむねよい」の回答率が高く、今年度については新型コロナウイルス感染症対策で様々な対応を余儀なくされ、各職員が感染防止に注意を払い、例年とは異なる生活様式の中での授業や行事に感染対策のための工夫を凝らした様子が見え、また、「17 仲間づくりの推進」では「よい」「おおむねよい」の回答が、昨年度より 15.3%UPと大幅に向上している。これは年度当初の臨時休業によりなかなかクラスが揃わなかったことに加え、生徒間の関係づくりや日常における他者とのコミュニケーションの取り方について重点的に指導してきたということを示している。

最も評価が低かった項目は「8 読書活動の工夫」であり、「よい」「おおむねよい」が 75.2%であった。この項目については昨年度も評価が低かったが、さらに 2.7%低下する結果となった。「図書だより」を活用して意欲向上をはかったり、管理職やALTが「お話タイム」を行って本に対する興味関心を高めたりするなどの取り組みを行っているが、なかなかその成果が現れていないということであろう。新型コロナウイルス感染症対策の問題はあるが、図書室を有効に活用する方策や貸出冊数を増やしてより多くの本を読むような取り組みを工夫していく必要がある。

## <医療センター>

	質 問 事 項	評 価 項 目
1	学校は、児童生徒の病気やけが等の緊急時に病院と連携をとり、適切な対応をしていますか。	病気・けがへの対応
2	学校は、医療・福祉・労働などの関係機関との連携・調整を図り、児童生徒の支援を行っていますか。	関係機関との連携
3	学校は、行事やPTA新聞、その他のたよりを通じて、学校の教育活動を伝えていますか。	情報提供

### 四国子どもとおとなの医療センター(配付23 回収15 回収率65.2%)



今年度は、「よい」「おおむねよい」の評価が大幅に減少し、「改善の余地がある」の評価が大幅に増加した。新型コロナウイルス感染拡大防止による病棟閉鎖の影響もあり、医療センターと学校との連携が例年通りにいかなかったことが原因と考えられる。また、院内学級の児童生徒や医療センターから通学ができない児童生徒に対するリモート授業の実施等、医療センターに多忙な業務の中いろいろとご協力を仰ぐことができていたが、今年度のような状況変化に合わせて今後の医療センターとの連携の取り方も検討が必要な時期となっている。

## 5 学校評議員及び学校関係者評価委員会

令和3年2月3日(水)、学校評議員4名とPTA代表2名にご出席いただき、学校評議員会及び学校関係者評価委員会を開催し、本年度の教育活動の概要と学校評価アンケート結果について報告した。報告後の質疑応答では出席者それぞれからご意見やご質問が示された。主なものについて以下に記載する。

- リモートについての今後の発展性をどう考えているかという質問に対して、学校と院内学級だけではなく、家庭と通信をつないでの授業やHR教室以外への授業配信について返答した。
- コロナ禍におけるメンタルヘルスはどうなっているのかという質問に対しては、スクールカウンセラーの状況や健康福利課の相談対応について説明した。
- コロナが収束したとしても今後はITというものが授業に入ってくると考えている。こういったものをうまく使っていけるといいといったご意見を頂戴した。
- コロナ禍の中で学校がどうなっているのか、子どもたちにどのような影響が出ているのかというのが気になって今回出席したが、先生方、保護者の方々の努力があって落ち着いているようである。今後も気を抜かず、平和な心で、暖かい心で子どもたちを見守っていただきたいという感想と要望をいただいた。
- リモートの活用が今後必要になってくる一方で、人とのつながりということについて、どのようにつなげていくのかというところが生徒たちにとってもとても大事なことで、そういったことにおいて、支援センターとしても協力していきたいとおっしゃっていただいた。
- ご自身のお子様が本校で担任していた教員とのつながりをとてもうれしく思っている。卒業して3年になるが、今でもその担任の先生と話すときは子どもの顔がとっても生き生きとしている。子どもと先生方のいい関係がとれるような環境をつくってもらいたいとの要望でした。
- 非常持ち出し袋に関係してのお願いと児童生徒たちのメンタル面での支援、そして、学部を越えた情報提供についてのお願いが出された。

## 6 各校務部及び各学部の重点目標、評価結果及び次年度への課題と改善策

分掌等	重点目標	評価結果	次年度への課題（・）と改善策（*）
総務部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者との連携及び保護者のPTA行事への参加や保護者同士の交流の促進</li> <li>・防災教育の実施と災害時の避難体制の確立と充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染拡大の影響で、PTA総会は書面審議で行った。また、今年度本校で開催する予定であった香川県特別支援学校PTA連絡協議会の運営会は書面審議に、全体会は中止となった。保護者交流会、PTA研修視察も中止にしたため、今年度は、保護者同士が関わる機会がほとんどなくなった。（保護者交流会に代わるものとして、3学期に、保護者同士で相談したいことについて質問を受け、保護者の方々に回答をお願いする形で、書面を通して保護者交流を図る予定。）</li> <li>・年3回、火事、地震を想定した防災避難訓練に取り組んだ。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、学部毎に避難を実施した。回数を重ねる毎に一人一人が判断して安全に行動できるよう意識しながら訓練に取り組む児童生徒が増えてきている。</li> <li>・昨年に引き続き、自宅からの通学生には、防災リュックを準備してもらった。6月末時点で95.4%の児童生徒が準備できた。保護者だけでなく、児童生徒と一緒に防災リュックの中身を考える機会をもつことで、それぞれの防災意識が高まってきている。</li> <li>・防災週間等に合わせ、掲示板に「防災コーナー」を設置し、防災クイズ、ハザードマップなどの掲示を通し、防災教育の啓発に努めた。また、高等部集会で防災学習の発表の場を設け、防災意識の向上に努めた。</li> <li>・全教職員が担当する児童生徒の障害の状態、発達段階、特性等に応じた個に対する避難誘導を想定して、主体的に訓練に取り組む必要があることが分かった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者へのPTA活動参加の啓発</li> <li>・保護者同士の交流促進 <ul style="list-style-type: none"> <li>* コロナ禍での保護者交流会、研修会の工夫</li> <li>* 保護者交流の場の提供</li> </ul> </li> <li>・防災教育の充実</li> <li>・災害時の避難体制の充実と徹底 <ul style="list-style-type: none"> <li>・避難確保計画の作成</li> <li>* 防災避難訓練の実施と防災計画の確認</li> <li>* 防災備蓄品の充実</li> <li>* 関係機関との連携</li> </ul> </li> </ul>
教務部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育課程の適切な運用による児童生徒の実態に合った授業の工夫</li> <li>・諸表簿等の正確な記載と合理的な処理</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・適切な授業時数や教科等を見直した新学習指導要領に基づいた教育課程の運用を開始した。</li> <li>・実態表をもとに、各グループで児童生徒の実態、指導内容及び指導方法に関する話し合いを行い、共通理解を図り、手引きを活用しながら、より具体的な個別の指導計画を作成しつつある。それに基づいた授業の実施は保護者、生徒、教職員に一定の評価を得ている。</li> <li>・年間学習指導計画を活用し、臨時休業中の学習内容に未履修がないよう、計画的かつ弾力的に取り組んでいる。</li> <li>・個別の指導計画や諸表簿等の手引きの活用を呼び掛け、正確な記載に努めた。また、記載の統一を図るために、本校独自の用字用語集の作成に取り組んだ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新学習指導要領に基づいた教育課程を運用し、より一層児童生徒の実態に合った授業を実施する。</li> <li>* 各学部で教育課程のPDCAサイクルの実施。</li> <li>* 昨年度、実施することができなかった学習内容についてはR4年度までに実施。</li> <li>・個別の指導計画や諸表簿等の手引きと本校独自の用字用語集の活用により、より正確な記載と定着化を図る。</li> </ul>

分掌等	重点目標	評価結果	次年度への課題（・）と改善策（＊）
研究部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の生活力・社会性を高めるための指導・支援スキルの向上</li> <li>・読書活動の推進</li> <li>・自立活動に関する指導、実践の専門性の向上</li> <li>・専門性を高めるための授業公開や研修会の実施と紹介</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個々の児童生徒の特性やニーズを踏まえ、生活力等を高める支援方法を「合理的配慮」として実践することができていた。</li> <li>・各教科等での「合理的配慮」の具体的な内容を事例集としてまとめ、個々の教員のスキルアップの資料として活用することができた。</li> <li>・「お話タイム」や「読書週間」の行事では、ALT や校内教員、図書委員会を活用し、読書活動への関心を高めることができた。</li> <li>・自立活動の観点を活用した「合理的配慮」の捉え方の理解が深まっている</li> <li>・公開授業週間の実施や授業内容について、グループ討議を用いた評価を実施することで授業スキルの向上に向けての研修を進めることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の実態把握力を高める必要</li> <li>・事例集を活用した授業研究と改善の実施</li> <li>＊図書室の活用への意識の向上</li> <li>＊図書委員会の活用</li> <li>・実態把握における自立活動の観点的活用</li> <li>・公開授業の継続</li> <li>・研究討議会の効果的な進め方の検討</li> </ul>
情報メディア部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT(情報通信技術)を活用した授業やAT(支援技術)を活用できる教員を育成する。</li> <li>・他の校務部と連携して、研修会等協力可能な業務内容を検討・実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度はコロナ感染拡大を防ぐため、毎年行ってきた夏季情報研修を、3密を避けて研修を行うことが難しいと判断して、全て実施を取りやめた。情報メディア部通信も、著作権に関する内容を取り上げたためか、教職員に対するアンケート結果は、Bの回答がAの回答の2倍になってしまった。今後、大量にiPadやそれに関する入出力関係のデバイスが本校に投入される。スイッチ類などを活用するATの知識や技能を、もう一度基本的なところから伝えられる方法を考える必用があると感じた。</li> <li>・Bの回答数がAの回答を少し上回ってしまった。研修会自体が今年度ほとんど無くなってしまったこともあるが、逆にリモートでの外部との会議や交流がいくつか実施されたが、実施していることを知らない教員が多いように感じられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・少人数での研修と内容の検討。特にiPadとスイッチ類の連動に関する内容や、iPadのアプリの使用方法について</li> <li>＊校務部員のスキルアップ</li> <li>＊職員への個別相談、個別対応</li> </ul>
生徒指導部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自尊感情や自己存在感を高められるような、充実した特別活動やサークル活動を推進する。</li> <li>・よりよい人間関係を築くために、ルールやマナーを教え、社会生活や集団への適応性を培う。</li> <li>・問題行動等の未然防止や早期解決のための体制づくりをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍において様々な学校行事やサークル活動などが制限を余儀なくされたことで、例年に比べると活躍できる機会やストレスを発散する場面が減った。その中でも、教員の支援を受けながら、新しい生活様式を見付け、今の環境に対応しようとする姿が見られた。</li> <li>・コロナの影響により、集団で活動する場面が減少し、それに伴って社会性を育てる機会が少なくなってしまった。しかし、学校生活全般においては、機会をとらえながらルールやマナーについての個々の実態に応じた指導が継続して行われている。</li> <li>・担任や副担任が必要な場面で児童生徒の気持ちに寄り添いながら指導をし、それをグループや学部間で共通理解することで大きな問題に発展することなく、未然防止に努めることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>＊自尊感情をさらに高めるための支援や活動形態の工夫</li> <li>・継続実施</li> <li>・児童生徒の小さな変化を見逃さない日々の観察</li> </ul>

分掌等	重点目標	評価結果	次年度への課題（・）と改善策（＊）
<p>人権・同和教育部</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人権教育への取り組み</li> <li>・仲間づくりの推進</li> <li>・人権情報の活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教育全般の中で自尊感情や人権感覚が育つよう意識して指導できている。「職員人権感覚チェック表」を配布し、支援や指導の観点をもって取り組んだ。</li> <li>・自尊感情を高める指導について、児童生徒が自分を認めるということについての分かりやすい事例や方策を示すチラシやパンフレットを配布した。</li> <li>・人権作品作りや人権教育LHRの中でのグループ間交流や、校内実習など様々な場面で仲間づくりの機会を広げる意識をもって取り組んだ。</li> <li>・人との関わりが難しい児童生徒が増えているため、自分の存在を認められるように教員が関わり、児童生徒が自己肯定感をもって他者を認められるようになることを期待して支援を行った。</li> <li>・「心のとびら」によって他の学部・グループの取組や各種の研修からの学びを発信し、共有を図った。日報を通じて研修会や資料についての情報を発信し、人権意識を高めてLHRや学級経営での活用に向けた取り組みも行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自尊感情を育てる支援の工夫と継続</li> <li>・自他を認める人権意識の高揚に向けた支援の工夫と継続</li> <li>＊交流推進の場面や状況設定の工夫</li> <li>・日報による情報発信</li> <li>＊「心のとびら」や職員研修による詳しい情報提供と啓発</li> </ul>
<p>保健・環境部</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活習慣の改善と定着</li> <li>・研修の内容充実</li> <li>・校舎内外の環境整備</li> <li>・食に関する情報の発信</li> </ul>	<p>児童生徒保健委員会で、保健衛生調べや換気、手洗い、うがい等の校内放送を継続して行っており健康管理に対する意識の向上につながっている。継続して生活習慣の改善と定着を図っていききたい。</p> <p>今年度、コロナの影響で実施できなかった研修もあるが、各グループで行った緊急時対応訓練では、教員間で共通理解をすることができ、それぞれが危機意識をもって対応するようになってきている。</p> <p>掃除道具を点検準備していくとともに、大掃除では具体的に重点場所を児童生徒へ校内放送で伝えていった。毎日の清掃の時間にも全員で取り組んでいる。気温・天候のため、外回り清掃の回数が少なかったが、実施日には多くの児童生徒が参加してくれた。</p> <p>10月から給食が始まり、それに伴い、食に関する掲示、食育だよりの発行、毎月の献立表のなかの食材に関するコメント等で食に関する情報を発信していくことができた。昼食の時間に、食材について話がはずむなど和やかな雰囲気が増えることが増えてきた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健に関する関心の向上</li> <li>＊保健衛生調べの内容の工夫</li> <li>＊保護者との連携</li> <li>・医学講座、緊急時対応訓練等の内容の充実</li> <li>＊医学講座、緊急時対応訓練等の実施回数や内容の検討</li> <li>・校舎内外の環境維持</li> <li>＊児童生徒、教職員への清掃啓発</li> <li>・情報発信の継続</li> <li>＊献立表、掲示板、食育だよりの内容の充実</li> </ul>

分掌等	重点目標	評価結果	次年度への課題（・）と改善策（＊）
<p>教育支援部</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校外外の相談支援の充実</li> <li>・教員の専門性の向上</li> <li>・「個別の教育支援計画」及びサポートファイル「かけはし」の作成推進</li> <li>・地域への理解啓発や情報提供</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各部の職員の協力を得ながら「ほっとルーム」の運営ができた。今年度は利用者数が昨年度の半数であった。</li> <li>・座談会は、コロナ感染症対策のためにすべて中止にし、保護者の交流の場を用意することができなかった。</li> <li>・スクールカウンセラーとの教育相談の希望する児童生徒・保護者をつなぐことができた。また、スクールカウンセラーと相談内容について連携することもできた。</li> <li>・校内の児童生徒・保護者・職員の相談件数が増加し、それぞれの相談に対して対応することができた。</li> <li>・公開講座を企画したが感染症対策のため校外の方の参加を受け入れられなかったのが残念だった。公開の職員には研修の場として活用することができた。</li> <li>・事例検討会では、具体的な事例について意見交換を行うことができ、児童生徒の学部を超えての連携につなげることができた。</li> <li>・医療的ケアの対象の児童生徒への指導内容についての効果を高めるために学校看護師との協議を行うようにした。</li> <li>・関係機関との指導内容の連携を図るための資料として活用することも含めた作成が適切にできている。</li> <li>・今年度は公開講座を実施できなかったために直接的な地域への理解啓発は十分行えなかった。HPでの情報発信は継続して行うことができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ほっとルーム運営に関わる職員の安定確保</li> <li>＊相談支援事業への理解啓発</li> <li>・コロナ対策を踏まえた座談会実施方法の検討</li> <li>・SCとの連携の継続</li> <li>＊定期的なSCとの懇談の実施</li> <li>・相談窓口の周知方法の検討</li> <li>＊相談窓口の明確化</li> <li>＊コロナ対策をしながらの研修会の実施方法の検討</li> <li>・事例検討への希望の提出方法の明確化</li> <li>＊学部間の連携を定期実施化</li> <li>・学校看護師との連携方法の明確化</li> <li>・関係機関との連携の進め方の検討</li> <li>＊他の分掌との連携を強化</li> <li>＊情報発信の継続</li> </ul>
<p>進路指導部</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者に対して進路に関する情報の提供や働き掛けの強化</li> <li>・教職員に対して各種進路に関する情報の提供及び他校務部との連携の強化</li> <li>・関係機関との連携の強化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体にABが多いものの、学部が上がるにつれてCDの数が増えており、進路が身近になる高等部の保護者の要望に十分に答えられていないと感じている。</li> <li>・小、高でCが多く、特に高では10%となっている。小、中に比べて生徒数も増えるため、多様化する生徒の対応に苦慮しているものと思われる。</li> <li>・概ね計画通り実施できた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者の要望をできるだけ把握する。</li> <li>＊担任と協力して保護者の話を聞く機会を増やし、対応する。</li> <li>・個々の生徒について共通理解を深めるとともに、協力して指導ができるようにする。</li> <li>＊グループ会等で話す機会を増やす。</li> <li>・今年度同様に実施する。</li> </ul>

分掌等	重点目標	評価結果	次年度への課題（・）と改善策（＊）
小学部	<p>重点目標への取組み</p> <p>・学部内の情報交換と連携</p> <p>・管理運営面への意識</p>	<p>・感染対策で活動や関わり、授業時数が制限されるなか、校内の学級では、指導内容の精選や組み合わせ、指導方法の工夫や改善等を行うことで、児童一人ひとりの成長を促せた。また、院内学級では、病院の協力でICTを活用した入学式等も行った。手探りで始めたリモート授業では、時間は短いものの授業構成や内容、提示方法等に工夫や改善を加え、児童の反応を引き出している。職員の知恵と工夫、病院の協力で児童に学習を保障できたと思う。</p> <p>・随時話し合い、朝礼やグループ会、学部会等でも情報交換を行い、共通理解のもと、児童の指導に当たっている。また、適宜グループ主任会を行い、調整を図っている。必要に応じて、病院や福祉等関係機関と連携し、児童を取り巻く環境も含めてサポートしている。</p> <p>・環境整備や安全対策について検討し、確認を行うことで、適時に対処して整備できている。</p>	<p>・専門性の向上</p> <p>＊効果的な指導の在り方を追求</p> <p>＊チェックリストの活用</p> <p>＊研究授業の参観や研修会への積極的な参加</p> <p>・連携の強化</p> <p>＊随時グループ主任会を実施。情報収集、情報の共有、協力体制、連携</p> <p>＊継続実施</p>
中学部	<p>重点目標への取組み</p> <p>・学部内の情報交換と連携</p> <p>・管理運営面への意識</p>	<p>・生徒の病気や障害特性の理解に努め、個に応じた指導や支援が行えるよう学級、グループ、学年、学部全体で共通理解を図り、対応した。</p> <p>・送迎時や連絡帳、電話、懇談等で、担任を中心に丁寧に情報共有を行い、必要に応じて、病院の医師や地域の相談支援員、市役所担当者等とも連携を図っている。</p> <p>・新型コロナウイルス感染症対策のため授業ができていない生徒に対して、教材作成やリモート授業など、できることを考えて取り組んだ。</p> <p>・職員朝礼やグループ会、部会等でも常に情報交換を行って、細かな連携を行った。また、定期的にグループ主任会を行い、共通理解を図った。</p> <p>・修学旅行や人権週間の取組など、学年での活動や、部集会、委員会活動、サークルなどグループを越えた活動においても連携できた。</p> <p>・感染症予防の意識を常にもち、消毒や換気など安全管理に積極的に取り組んだ。</p> <p>・10月から始まった給食の対応も、安心安全を基本に取り組んでいる。</p>	<p>・授業改善</p> <p>＊指導内容・指導方法・指導体制の改善</p> <p>・情報交換に基づく連携</p> <p>＊生徒・保護者・職員間での情報交換</p> <p>＊必要に応じたケース会の実施</p> <p>＊定期的なグループ主任会の開催</p> <p>＊職員間の協力体制</p> <p>・感染症予防への取組</p>

分掌等	重点目標	評価結果	次年度への課題（・）と改善策（＊）
高等部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多様な生徒の実態に応じた自己肯定感を高める指導や支援の工夫</li> <li>・生徒の学習状況や学校生活の工夫と、家庭での生活等に関する職員間や保護者との情報共有及び連携</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「学校に行くのが楽しいか?」「サークル活動、学部集会等へ参加しやすいか?」という質問に、1組の約20%の生徒が登校や活動への参加に不安を感じていると答え、全体の約10%の保護者が学校に行くことへの我が子の不安を感じているようであるが漸減傾向にある。</li> <li>・ICTを活用した指導については生徒や保護者、教職員とも活用に差を感じていたり、指導の改善を目指したい意向が見られたりしている。また、グループ間の連携した指導や関わりの在り方について教職員が課題を感じている。情報提供についても十分だと評価されている部分がありつつも、一部の生徒や保護者には不十分と感じられているところもあるので、更なる工夫や改善を目指していかなければならない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多様な生徒の実態に応じた自己肯定感を高める指導や支援の工夫</li> <li>＊グループ会、ケース会、授業担当者協議を中心に、生徒の状況把握や指導と支援の充実を図る。</li> <li>・生徒の学習や学校生活でのICTを含めた指導の工夫と、職員間や保護者との情報共有及び連携</li> <li>＊ICT活用の研修の充実、及び保護者、職員間の情報共有やコミュニケーションの方法を工夫する。</li> </ul>